

10月の生活を1週間が経ちました。

2学期の生活をこれから中盤へと入っていきます。

本格的な冬を迎えるまでには、しばらくの時間が「まだまだ」必要です。

この季節の移り変わりを観察して、体験しながらこれからを過ごして参ります。

こどもたちの思い出づくりに手を貸してあげましょう。

■年長児たち100円Shopへ行ってきました!

年長児として社会体験のひとつです。

ひとりひとりが110円を握りしめて、仲よしと一緒に

にワクワク・ドキドキの社会体験です。

どんなものが売っているのか、あらかじめお店の

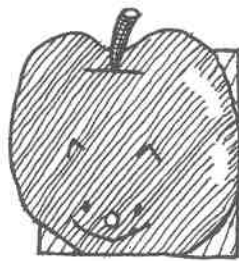
売場の写真を2階廊下の壁に

貼っておきました。

どの写真を見ても、こどもたちに

とっても欲しいものばかりです!

この中からひとつだけです!



お店にある興奮気味のこどもたち、自分の売り場

を見つけるとまっぴらです!

あ、言う間にゲートする子! なかなか決まらない子!

おひたつちのを見て思案してしまう子! ...とさまざまですが

仲よしのおひたつちのお誕生日プレゼントを買った子、ママ

へのプレゼントでどれにしようかと思案の子たち。

■書家 金澤 翔子 33歳(自叙傳)は

こどもたちの心の育ちを重視している幼稚園である

事をお話して心と言字書いていただきました。

正面玄関入って真っ直ぐの壁に展示して

あります。ご来園の際にごらんください。

■ 日に寒くなって来ておりますが、

園庭あそびでぞろぞろ空想になりな

沢山の育ちを見せてくれた園庭でし

たが、つぼみさんたちのようすを見て

いて、2輪車の上達にはビックリ!

年中長用の大きな物をす〜いすいの

子が沢山あります!

2年・3年後の上達がとて楽しみです♡

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

どうして、おばあちゃんのお誕生日が自分と同じで

そのプレゼントに決めて来た子など、ほほえましい

社会体験でした♡

(心の育ちシリーズ) そんな関係の中でこどもたちを育ちます!

子ども家庭フォーラム代表で教育心理カウンセラーの畠田 富士江 先生が講演で言いました。私は、幼児教育に携わる者として同感するし、大切なことだと思います。

『幼稚園や保育園の先生、介護士、看護師、そして学校の先生にもなり手が激減しています』これは深刻な問題を、対人援助の仕事が「消費者とサービス提供者の関係のような感覚」になって来ているのをご存知ありません。

お互いに「ありがとう」と言い合ったり、「一緒に子どもを育てる」という共有をしている意識を忘れ勝ちかも知れません。先生だって保護者だって苦しい時があります。それを分かち合い、支え合い、時には甘えて行くことが大切なんですね。

私の所に若い幼稚園の先生が相談に来ます。「毎日のように園を辞めたいと思います。でも、朝になると体が動き、こどもたちの笑顔が見たくるんです」と言います。

先生にだって仕事が嫌になってしまふことがあります。でも、保護者やこどもたちの声があれば、それに支えられたり、励まされたリして元氣張れたりするんです。

お子さんが家に帰ると、先生の事を話見聞に出るでしょう。そんな時はぜひ園の先生に教えてあげて欲しいです。

その声に、幼稚園の先生は励まされ、うれしくなり、元氣が湧くのです。具合の悪い時と「先生! 風邪ひいた?」とか気づかっただらえと「あ、こは私でも待っていてくれる人が居るんだ!」と思えて、その園が自分の「還る家」に思えてくるのです。

保護者と先生と皆一緒に、弱き存在です。保育という生活を通して人間関係を学び成長して行きます。こどもたちはどういった関係の中で育って行くのです?!